



### ジョナサン・ストックハンマー(指揮) [5/22] Jonathan Stockhammer, conductor

ロサンゼルス生まれ。ジャンルや時代を超え、幅広い音楽を愛し、同じ情熱のもと活動している。中国語と政治学を学んだ後に作曲と指揮を学び始め、ロサンゼルス・フィルでサロネンのアシスタントとして研鑽を積み、その後ドイツに渡り、アンサンブル・モデルン、コレギウム・ノーヴム・チューリッヒ、アンサンブル・レゾナントといった現代音楽専門のアンサンブルと密接に活動する。以降、ロンドン響、フィルハーモニア管、オスロ・フィル、NDRエルブフィル、フランクフルト放送響、チェコ・フィル、シドニー響など、多くの著名なオーケストラと共演しており、ザルツブルク、ルツェルン、ドナウエッシンゲン、ヴェネツィア・ピエンナーレ、ウィーン芸術週間、ウィーン・モデルンなどの音楽祭に出演している。オペラ分野でも、ニューヨーク・シティ・オペラでアデス『パウダー・ハー・フェイス』、ウィーンでエトヴェシュ『三人姉妹』、バーゼルでノーノ『愛に満ちた偉大な太陽のもとで』、ベルリン・コーミッシェ・オーパーでグラス『アクナーテン』など、近現代の作品を中心に幅広く活躍している。  
<https://jonathanstockhammer.com>



### ホルンロー・モダン・アルプホルン・カルテット [5/22] Hornroh Modern Alphorn Quartet

(バルタザール・シュトライス、ミヒャエル・ビュトラー、ジェニファー・タウダー=アマン、ルーカス・ブリッゲン)  
(Balthasar Streiff, Michael Büttler, Jennifer Tauder-Ammann, Lukas Brüggen)  
2000年夏、ミュンヘン・オペラ・フェスティバルへの出演を機にバーゼルの管楽器奏者4名により結成。アルプホルンの伝統的な音楽に現代的な思考と演奏を融合させることを目的としている。結成以来オリジナル作品や即興演奏、新作委嘱、楽器の開発、革新的な演出を試み、この楽器からエネルギーが湧き出た多様な音のパレットを引き出してきた。ハースのコンチェルト・グロッソ第1番はマルツキ指揮バイエルン放送響との2014年の世界初演以来、ロト/SWR響、ルンデル/ウィーン放送響、ナガノ/チューリッヒ・トーンハレ管、グラジナーテ=ティーラ/ロサンゼルス・フィルなどと共演、2018年にはヴォルコフ/BBCスコティッシュ管とBBCプロムスに、2022年にはオルソップ/ウィーン放送響とザルツブルク音楽祭に出演している。  
<https://www.hornroh.ch>



### 阿部 加奈子(指揮) [5/25] Kanako Abe, conductor

オランダ在住。東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、パリ国立高等音楽院にて作曲に関連する6つの課程とともに日本人として初めて同音楽院指揮科で学ぶ。これまでにジョルト・ナジ、ファビオ・ルイーシ、エティエンヌ・シーベンスなどに師事。2005年に現代音楽アンサンブル「ミュルチラテラル」を創設、2014年まで音楽監督を務める。これまでにIRCAMとの提携、ラジオ・フランスへの録音をはじめ、ヴェネツィア国際現代音楽祭などで200曲以上の世界初演を手がける。2022年7月にプシュ・エル=トゥルクのオペラ『Woman at Point Zero』の世界初演でエクサン=プロヴァンス音楽祭、同作品で2023年6月にコヴェントガーデン王立歌劇場、2024年5月にウィーン芸術週間、2025年3月にエル=トゥルクの新作オペラ『OUM』の世界初演でオランダ国立歌劇場にデビューを果たす。幅広いレパートリーを背景に国内外で活躍の場を広げている。現在、フランス・ドーム交響楽団の音楽監督兼芸術監督、アンサンブル・オロチの音楽監督を務める。ハーグ音楽院非常勤講師。  
<https://kanakoabe.com>



読売日本交響楽団 [5/22]  
Yomiuri Nippon Symphony Orchestra  
<https://yomikyoku.or.jp>



東京フィルハーモニー交響楽団 [5/25]  
Tokyo Philharmonic Orchestra  
<https://www.tpo.or.jp>

東京オペラシティArts友の会優先発売:2月21日(金) [インターネット予約]会員優先発売:2月26日(水) 一般発売:2月28日(金)

東京オペラシティチケットセンター  
03-5353-9999 <https://www.operacity.jp/concert/>  
チケットぴあ: <https://t.pia.jp/> (Pコード: 289-208) イープラス: <https://eplus.jp/>

●曲目、出演者等は、変更になる場合がございますのでご了承ください。●就学前のお子様の同伴・ご入場はご遠慮ください。  
●ネットオークション等での営利目的による転売はお断りいたします。

#### 【演奏会についてのお問い合わせ】

東京オペラシティ文化財団 TEL.03-5353-0770  
〒163-1403 東京都新宿区西新宿3-20-2

【交通のご案内】 ●京王新線 初台駅東口(徒歩5分以内)  
●渋谷よりバス(約20分)  
京王バス-渋63、渋64、渋66 都営バス-渋66

コンサートホール、リサイタルホールへお車でご来場の際は、  
駐車料金割引制度をご利用いただけます。

# コンポージアム 2025

ゲオルク・フリードリヒ・ハースを迎えて

5月21日[水]  
ゲオルク・フリードリヒ・ハース  
トークセッション



5月22日[木]  
ゲオルク・フリードリヒ・ハースの音楽

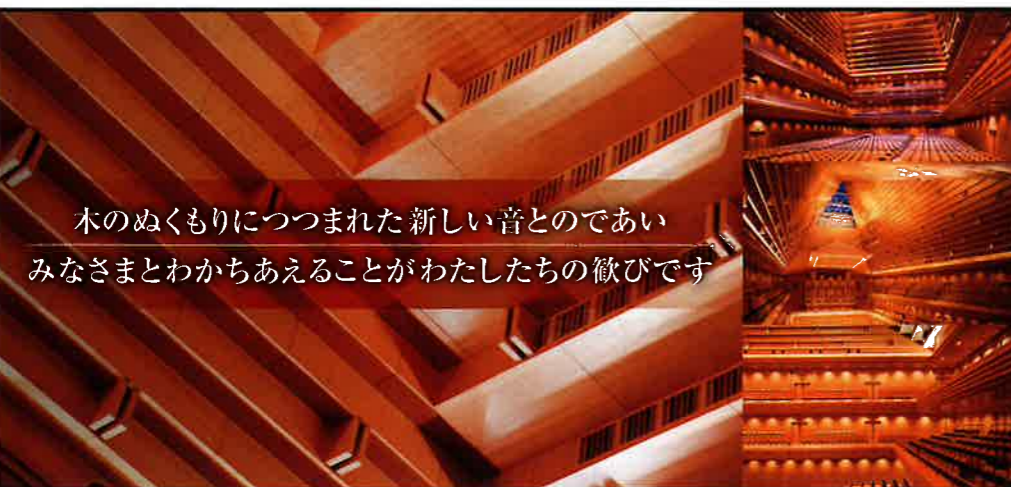


5月25日[日]  
2025年度 武満徹作曲賞本選演奏会



## 東京オペラシティ コンサートホール:タケミツメモリアル

主催:公益財団法人 東京オペラシティ文化財団  
協賛:日本生命保険相互会社、ジャパンリアルエステイト投資法人、NTT都市開発リート投資法人



木のぬくもりにつつまれた新しい音とのであい  
みなさまとわかちあえることがわたしたちの喜びです



協賛:



NTT都市開発  
リート投資法人



# COMPOSIUM 2025

21, 22 and 25 May 2025



**ゲオルク・フリードリヒ・ハース**(作曲家 / 2025年度武満徹作曲賞審査員) Georg Friedrich Haas, composer/judge of Toru Takemitsu Composition Award 2025

1953年オーストリア、グラーツ生まれ。グラーツ国立音楽大学にてゲスタ・ノイヴィルトに作曲を、ドリス・ヴォルフにピアノを学ぶ。その後ウィーン国立音楽大学にてフリードリヒ・ツェルハに師事。ダルムシュタット夏期現代音楽講習会やIRCAMでも学んでいる。グラーツ国立音楽大学とバーゼル音楽院にて教えたのち、2013年からはトリストラン・ミュライユの後任としてニューヨークのコロンビア大学作曲科教授を務めている。ヴィシネグラツキーやアロイス・ハーバを研究し、室内アンサンブルのための《夜陰》(1991)、室内オペラ『夜』(1995-96/98)、弦楽四重奏曲第1番(1997)、《Nach-Ruf...ent-gleitend...》(1999)等、多くの作品で微分音を駆使し、精妙にコントロールされた倍音が特徴的である。同時に、過去の作曲家へも視線を注ぎ、シューベルトの未完のソナタD840をオーケストレーションした《トルソー》(1999-2000/01)、シュレーカーのオペラ『はるかなる響き』を引用する《チェロ協奏曲》(2004)、モーツァルト《レクイエム》と組み合わせる《7つの音空間》(2005)、またライブツィヒ・ゲヴァントハウス管からの委嘱作《夏の夜の夢》(2009)ではメンデルスゾーンからの引用が織り込まれている。最新作に、アンサンブル・モデルンの演奏によりドナウエッシンゲン音楽祭で初演された《weiter und weiter und weiter...》(2022)、ウィーン楽友協会の委嘱作《ungefähr ganz genau》(2022)などがある。ウィーン市音楽賞(2004)、オーストリア国家大賞(2007)、南西ドイツ放送響作曲賞(2010)、ザルツブルク音楽賞(2013)など多くの受賞歴がある。ベルリン芸術アカデミーやバイエルン芸術アカデミーの会員。作品はユニバーサル・エディションおよびリコルディ・ベルリン(2016年秋以降)より出版されている。

世界中の若い世代の作曲家に創作を呼びかける「武満徹作曲賞」を核とした、東京オペラシティの同時代音楽企画が「コンポーシウム COMPOSIUM」(造語: Composition+Symposium)です。27回目となる2025年は、オーストリア出身、現在はニューヨーク在住のゲオルク・フリードリヒ・ハースを審査員に迎えます。ハースの作曲の特徴である微分音を駆使した精妙な音響構築により、新しい音楽世界を発見させてくれます。世界的な作曲家を迎え、優れた現代作品を優れた演奏で楽しめる「コンポーシウム2025」にご期待ください。

featuring

# Georg Friedrich Haas

Toru Takemitsu Composition Award 2025: Final Concert

## 2025年度 武満徹作曲賞本選演奏会

**5月25日[日] 15:00 東京オペラシティコンサートホール** 全席自由(税込): ¥1,000  
Sunday 25 May 2025, 15:00 Tokyo Opera City Concert Hall

審査員: **ゲオルク・フリードリヒ・ハース** 指揮: **阿部加奈子** 東京フィルハーモニー交響楽団  
Georg Friedrich Haas, judge Kanako Abe, conductor Tokyo Philharmonic Orchestra

世界中の若い世代の作曲家たちを対象としたオーケストラ曲の作曲コンクールが「武満徹作曲賞」です。毎回たった一人の作曲家が審査にあたることや、受賞者たちのその後の活躍により世界的に知られています。27回目となる2025年の審査員はゲオルク・フリードリヒ・ハース。33カ国(出身国・地域)から集まった137曲の応募作品の中からハース自身による譜面審査によって選ばれた作品が演奏され、受賞作品が決定します。



### ファイナリスト[エントリー順]



#### チャーイン・チョウ(中国): 潮汐ロック

Jiaying Zhou(China): Tidal Lock for orchestra

1995年、上饒生まれ。上海音楽院作曲指揮科博士課程に在籍し、ジエンミン・ワン、エルマー・ランブソン、スー・シャオの各氏に師事。これまでに中国NCPA管弦楽団、上海交響楽団、上海フィルハーモニー管弦楽団、貴陽交響楽団、上海民族楽団、ASEANコンテンポラリー室内アンサンブル、ティン・イー室内アンサンブル(シンガポール)と共演。



#### 我妻 英(日本): 管弦楽のための《祀》

Suguru Wagatsuma(Japan): MATSURI for orchestra

1999年、山形県山形市生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻作曲「芸術音楽コース」を経て、同大学院修士課程作曲指揮専攻作曲研究領域芸術研究修了。これまでに作曲を木島由美子、名倉明子、伊左治直、故西村朗、細川俊夫の各氏に師事。サントリーホールサマーフェスティバル2021にてマティアス・ビンチャーの公開作曲ワークショップに作品が選出される。2023年にIPDA第23回国際ピアノデュオコンクール作曲部門にて大賞(第1位)を受賞、受賞曲は翌年の第24回同コンクール演奏部門の本選課題曲となった。2024年から武生国際音楽祭作曲ワークショップのアシスタント作曲家を務め、同音楽祭で作品が演奏されている。



#### 金田 望(日本): 2群のオーケストラのための《肌と布の遊び》

Nozomu Kaneda(Japan): The Play for Skin and Fabric for 2 orchestras

1992年、新潟県新潟市生まれ。国立音楽大学音楽学部音楽文化デザイン学科作曲専修卒業。同大学院修士課程、同大学院博士後期課程修了。学部卒業時に有馬賞、修士課程修了時に最優秀賞を受賞。武満徹に関する研究で博士号を取得。2019年第10回JFC賞作曲コンクール入選。2020年第1回松村賞受賞。作曲を川島素晴、藤井喬梓、丸山和範、作曲理論を小原美子、音楽学を白石美雪、友利修の各氏に師事。現在、国立音楽大学大学院非常勤助教、桐朋学園大学音楽学部、桐朋学園大学附属子供のための音楽教室非常勤講師。https://nozomukaneda.studio.site



#### フランチェスコ・マリオリッティ(イタリア): 二枚折絵

Francesco Mariotti(Italy): Diptych for orchestra

1991年、カルペーニャ生まれ。現在、ローマのサンタ・チェチーリア国立アカデミアでアレクサンドロ・ソルビアッティに、ミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でフェデリコ・ガルデッラに作曲を師事。シエナのキジアーナ音楽院でサルヴァトーレ・シャリノのもと、ディプロマを取得。2022年第4回国際作曲家コンクール「ニューミュージック・ジェネレーション」第1位、2022年及び2024年デュエ・アゴスト国際コンクール特別賞を受賞。ルチアーノ・ベリオ国際作曲コンクールではファイナリストに選ばれ、作品はミラノムジカ音楽祭、Festival 5 Giornate、ポンティエーノ音楽祭、キジアーナ音楽院をはじめ、スペイン、ブルガリア、ロシア、カザフスタンなど幅広く演奏されている。

Georg Friedrich Haas TALK SESSION

## ゲオルク・フリードリヒ・ハース トークセッション

**5月21日[水] 19:00 東京オペラシティコンサートホール** 入場無料・申込不要  
Wednesday 21 May 2025, 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

ゲオルク・フリードリヒ・ハース 聞き手: **沼野雄司**(音楽学者)  
Georg Friedrich Haas Yuji Numano, interviewer English/Japanese interpretation will be provided.



公演詳細

The Music of Georg Friedrich Haas

助成: 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

## ゲオルク・フリードリヒ・ハースの音楽

**5月22日[木] 19:00 東京オペラシティコンサートホール** 全席指定(税込): 一般¥4,000 学生¥1,000  
Thursday 22 May 2025, 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

指揮: **ジョナサン・ストックハンマー** ホルンロー・モダン・アルプホルン・カルテット 読売日本交響楽団  
Jonathan Stockhammer, conductor Hornroh Modern Alphorn Quartet Yomiuri Nippon Symphony Orchestra



### メンデルスゾーン: 序曲《フィンガルの洞窟》op.26

Mendelssohn: The Hebrides overture, op.26

### マーラー: 交響曲第10番 嬰へ長調 から「アダージョ」

Mahler: Adagio aus der Symphonie Nr.10 Fis-dur

ハース: 《... e finisci già?》~オーケストラのための(2011)[日本初演]

Haas: "... e finisci già?" for orchestra (2011) [Japanese premiere]

ハース: **コンチェルト・グロッソ第1番** ~4本のアルプホルンとオーケストラのための(2014)[日本初演]

Haas: concerto grosso Nr.1 for 4 alphorns and orchestra (2014) [Japanese premiere]

ハースの作曲技法の最大の特徴は微分音。通常の半音刻みの音階だけでなく、全音を4分割、6分割、8分割といったように細分化し、複雑な音響を積み上げていきます。本演奏会では、ハースの作品からモーツァルトのホルン協奏曲へのオマージュとして書かれた《... e finisci già?》と、4本のアルプホルンとオーケストラのための《コンチェルト・グロッソ第1番》の2曲を中心に演奏します。特に《コンチェルト・グロッソ第1番》では、スイス・アルプスにも近いオーストリア出身のハースらしくアルプホルンに着目、この楽器が微分音演奏に適していることもあり、まさにハースにとって理想的な音楽が実現された作品といえるでしょう。演奏会の前半で演奏されるのは、近年その再評価が高まるメンデルスゾーン、調性の崩壊を感じさせるマーラーの交響曲第10番から「アダージョ」。音楽史の流れに沿って、ハース作品の不協和のようで複雑精妙な響きへといきます。



公演詳細

武満徹作曲賞は、一人の審査員が結果を決める珍しいコンクールである。多くの作曲コンクールにみられる、審査員たちの最低の共通分母で結果が決まるという弱点は、ラディカルかつ主観的な選択というチャンスに取って代わられる。その責任は重く、危険を伴う。

私は、敢えてラディカルなことを試み、ラディカルな決断を独自に下すことができるアーティストを探していた。そしてそうした4人を見出すことができたと思っている。それぞれ、まったく違っている。それぞれ、一貫して自らの道を進んでいる。これらの4人に対して私はこう伝えたい。「私はあなたたちを信じている。さらに発展を遂げてほしい」そして「選ばれし者たち」の小さな輪に——多かれ少なかれ僅差で——入れなかった多くの方たちに対しては、こう伝えたい。「私があなたたちの作品の価値を十分に評価できなかったのは私の問題であって、あなたたちの問題ではない。そのことに惑わされず、さらに発展を遂げてほしい」

音楽の未来は私たち全員の前途に広がっている。やるべきことはたくさんある。

[譜面審査結果コメントより抜粋]

※コメント原文(英語)は、ホームページにてご覧頂けます。

ゲオルク・フリードリヒ・ハース



公演詳細